

チーム医療リテラシー

責任者・コーディネーター	全学教育推進機構 佐藤 洋一 機構長 教養教育センター 松政 正俊 センター長 人間科学科心理学・行動科学分野 相澤 文恵 教授		
担当講座・学科(分野)	全学教育推進機構、人間科学科心理学・行動科学分野、緩和医療学科、解剖学講座細胞生物学分野、生化学講座分子医化学分野、微生物学講座感染症学・免疫学分野、薬理学講座情報伝達医学分野、病理学講座機能病態学分野、腫瘍生物学研究部門、衛生学公衆衛生学講座、泌尿器科学講座、解剖学講座発生生物・再生医学分野、生理学講座病態生理学分野、生化学講座細胞情報科学分野、微生物学講座分子微生物学分野、薬理学講座病態制御学分野、口腔医学講座関連医学分野、口腔医学講座予防歯科学分野、口腔保健育成学講座小児歯科学・障害者歯科学分野、天然物化学分野、衛生化学分野、生体防御学分野、分子細胞薬理学分野、薬物代謝動態学分野、臨床医化学分野、薬学教育学分野、人間科学科哲学分野、人間科学科文学分野、人間科学科法学分野、情報科学科数学分野、物理学科、化学科、外国語学科英語分野		
対象学年	3	区分・時間数	講義 13.5 時間
期間	前期		
単位数	1 単位		

・学習方針（講義概要等）

専門職連携教育(Inter Professional Education)の一環として、初年次での、「多職種連携のためのアカデミックリテラシー（問題解決型学習を含む）」での経験を踏まえ、3年次では全人的医療を実現するうえでの多職種連携の必要性を理解することを目的とする。これまでの教養教育・専門教育での知識や経験を生かし、患者の健康段階に応じたサポート体勢がどのような職種によるチームによって形成されるのか、また、緩和ケアにおいて患者の痛みを全人的に理解するためにどのような検討が必要なのかを、講義と医学・歯学・薬学の学生によるアクティブラーニングを通じて学修する。また、立場の異なるメンバーが集まったグループにおいて、一つの判断や結論を出すワークを行うことで、他者の意見を傾聴し、他者の価値観に配慮したうえで自己の意見を主張するスキルを学修し、チーム医療に必要なコミュニケーションの在り方や方法を理解する。

・教育成果（アウトカム）

専門教育途上にある学生が、他の学部学生とともに患者の健康段階に応じた多職種の役割について学び、討議することで、全人的医療を実現する上での多職種連携の必要性に気付く。また、緩和医療における患者の全人的苦痛を類推し、それに対応する医療職を考えることによって、命を預かる医療人としての高いモラルと患者や他の職種を尊重する意識を身につける。これらのことにより、今後の医療知識獲得や臨床実習実践をより一層意欲的に行う覚悟を持つ。アクティブラーニングを通して、立場の異なるメンバーの意見を傾聴し、また、自分の意見をわかりやすく説明することを学修し、多様な価値観を尊重し、他者を畏敬する謙虚な気持ちを維持することができる。あわせて、生涯にわたってコミュニケーション能力をブラッシュアップするための要点をつかむ。

(ディプロマ・ポリシー：1,4,5)

・到達目標（SBO）

1. 医学・歯学・薬学のそれぞれの立場で、チーム医療について考え、全人的医療を実現する誠の医療人として何をなすべきかを見定めることができる。
2. 患者の健康段階に応じて、多職種連携協働に関わる各職種、行政の役割について説明できる。
3. 医学・歯学・薬学のそれぞれの立場で、緩和ケアの問題について考えることができる。
4. 自分の価値観や判断の仕方を再認識し、他者の価値観を理解することができる。
5. 適切な手段により自分の考えや感情を相手に伝えることができる。
6. 他者の意見を尊重し、協力してよりよい解決法を見出すことができる。
7. グループダイナミクスについて説明することができる。

・講義日程

（矢）大堀記念講堂他、実習室等

月日	曜日	時限	分野	担当教員	講義内容/到達目標
5/22	火	3	全学教育推進機構 心理学・行動科学分野 衛生学公衆衛生学講座	佐藤 洋一 機構長 相澤 文恵 教授 佐々木 亮平 助教	1.カリキュラムの目的と受講方法を説明できる。 2.我々の目指すチーム医療について説明できる。 3.医療における多職種連携を災害支援の例として説明できる。 （大堀記念講堂）
5/22	火	4	全学教育推進機構 心理学・行動科学分野	佐藤 洋一 機構長 相澤 文恵 教授	講演 （村上雅彦先生・大船渡病院） 1.緩和医療における多職種連携の現状を説明できる。 （大堀記念講堂）
5/29	火	3	心理学・行動科学分野	相澤 文恵 教授	行動科学講義 1.全人的医療に果たす行動科学の役割について説明できる。 2.医療における多職種連携の必要性を説明できる。 3.iPEG の使用法を説明できる。 4.医療にかかわる多職種の名前と役割を概説できる。 （大堀記念講堂）
5/29	火	4	心理学・行動科学分野 細胞生物学分野 分子医化学分野 感染症学・免疫学分野 情報伝達医学分野 機能病態学分野 腫瘍生物学研究部門 衛生学公衆衛生学講座 泌尿器科学講座 発生物・再生医学分野 病態生理学分野	相澤 文恵 教授 中野 真人 特任講師 古山 和道 教授 村木 靖 教授 近藤 ゆき子 講師 増田 友之 教授 前沢 千早 教授 佐々木 亮平 助教 高田 亮 講師 原田 英光 教授 成田 欣弥 講師	ワークショップ1（健康段階に応じた多職種の役割） 1.事例に示された患者の健康段階において必要とされる患者・家族へのサポートを列挙することができる。 2.1であげられたサポートに主体的に関わる専門職を列挙することができる。 3.健康段階に応じて、患者・家族に対する全人的に関わり（身体的、精神的、社会的、スピリチュアルな側）を述べるこ

			細胞情報科学分野 病態制御学分野 病態制御学分野 関連医学分野 予防歯科学分野 小児歯科学・障害者歯科学分野 天然物化学分野 衛生化学分野 生体防御学分野 分子細胞薬理学分野 薬物代謝動態学分野 薬物代謝動態学分野 臨床医化学分野 薬学教育学分野 文 学 分 野 心理学・行動科学分野 法 学 分 野 物 理 学 科 物 理 学 科 物 理 学 科 英 語 分 野	横田 聖司 助教 小笠原 正人 教授 田村 晴希 講師 千葉 俊美 教授 岸 光男 教授 森川 和政 教授 浅野 孝 助教 米澤 正 助教 錦織 健児 助教 衣斐 美歩 助教 小澤 正吾 教授 寺島 潤 助教 高橋 巖 助教 奈良場 博昭 教授 平林 香織 教授 藤澤 美穂 助教 廣瀬 清英 講師 小松 真 講師 小田 泰行 助教 寒河江 康朗 助教 大沼 仁美 助教	とができる。 (各実習室)
5/29	火	5	心理学・行動科学分野 全学教育推進機構 細胞生物学分野 分子医化学分野 感染症学・免疫学分野 情報伝達医学分野 機能病態学分野 腫瘍生物学研究部門 衛生学公衆衛生学講座 泌尿器科学講座 発生物・再生医学分野 病態生理学分野 細胞情報科学分野 病態制御学分野 病態制御学分野 関連医学分野 予防歯科学分野 小児歯科学・障害者歯科学分野 天然物化学分野 衛生化学分野 生体防御学分野 分子細胞薬理学分野 薬物代謝動態学分野 薬物代謝動態学分野 臨床医化学分野 薬学教育学分野 文 学 分 野 心理学・行動科学分野 法 学 分 野	相澤 文恵 教授 佐藤 洋一 機構長 中野 真人 特任講師 古山 和道 教授 村木 靖 教授 近藤 ゆき子 講師 増田 友之 教授 前沢 千早 教授 佐々木 亮平 助教 高田 亮 講師 原田 英光 教授 成田 欣弥 講師 横田 聖司 助教 小笠原 正人 教授 田村 晴希 講師 千葉 俊美 教授 岸 光男 教授 森川 和政 教授 浅野 孝 助教 米澤 正 助教 錦織 健児 助教 衣斐 美歩 助教 小澤 正吾 教授 寺島 潤 助教 高橋 巖 助教 奈良場 博昭 教授 平林 香織 教授 藤澤 美穂 助教 廣瀬 清英 講師	ワークショップ1 (健康段階に応じた多職種の役割) 1.ワークショップの結果をグループごとに発表し、他グループのメンバーと討議できる。 2.チューターからのフィードバックを受け、医療における多職種の役割と多職種連携の必要性について説明できる。 (各実習室)

			物理学科 物理学科 物理学科 英語分野	小松 真 講師 小田 泰行 助教 寒河江 康朗 助教 大沼 仁美 助教	
6/5	火	3	緩和医療学科	木村 祐輔 特任教授	緩和医療論講義 1.緩和ケアについて、歴史、理念、意義について説明できる。 2.全人的な“痛み”を理解し説明することができる。 3.がん治療に関わる多職種(医師、看護師、薬剤師、MSW, 臨床心理士ほか)それぞれの役割について理解し説明することができる。 (大堀記念講堂)
6/5	火	4	緩和医療学科 心理学・行動科学分野 全学教育推進機構 細胞生物学分野 分子医化学分野 感染症学・免疫学分野 情報伝達医学分野 機能病態学分野 腫瘍生物学研究部門 衛生学公衆衛生学講座 泌尿器科学講座 発生物・再生医学分野 病態生理学分野 細胞情報科学分野 分子微生物学分野 分子微生物学分野 関連医学分野 予防歯科学分野 小児歯科学・障害者歯科学分野 天然物化学分野 衛生化学分野 生体防御学分野 分子細胞薬理学分野 薬物代謝動態学分野 薬物代謝動態学分野 臨床医化学分野 薬学教育学分野 学科哲学分野 文学分野 心理学・行動科学分野 法学分野 化学科 化学科 英語分野	木村 祐輔 特任教授 相澤 文恵 教授 佐藤 洋一 機構長 中野 真人 特任講師 古山 和道 教授 村木 靖 教授 近藤 ゆき子 講師 増田 友之 教授 前沢 千早 教授 佐々木 亮平 助教 高田 亮 講師 原田 英光 教授 成田 欣弥 講師 横田 聖司 助教 下山 佑 講師 石河 太知 助教 千葉 俊美 教授 岸 光男 教授 森川 和政 教授 浅野 孝 助教 米澤 正 助教 錦織 健児 助教 衣斐 美歩 助教 小澤 正吾 教授 寺島 潤 助教 高橋 巖 助教 奈良場 博昭 教授 遠藤 寿一 教授 平林 香織 教授 藤澤 美穂 助教 廣瀬 清英 講師 東尾 浩典 講師 吉田 潤 助教 柳谷 千枝子 助教	ワークショップ2 (緩和医療における多職種の役割) 1.記述されている内容から類推される患者・家族の苦痛を想像し、患者の”全人的苦痛”(身体的苦痛、社会的苦痛、精神的苦痛、スピリチュアルペイン)を列挙することができる。 2.1にて列挙した苦痛(つらさ)への対応方法をグループで話し合い、主体的に関わる専門職を列挙し、チームとしての対応方法を述べるができる。 3.自らの専門性(医師、歯科医師、薬剤師)を基盤とした”苦痛(つらさ)”への関り、他の医療職との連携による対応方法を述べるができる。 (各実習室)

6/5	火	5	緩和医療学科 心理学・行動科学分野 全学教育推進機構 細胞生物学分野 分子医化学分野 感染症学・免疫学分野 情報伝達医学分野 機能病態学分野 腫瘍生物学研究部門 衛生学公衆衛生学講座 泌尿器科学講座 発生物・再生医学分野 病態生理学分野 細胞情報科学分野 分子微生物学分野 分子微生物学分野 関連医学分野 予防歯科学分野 小児歯科学・障害者歯科学分野 天然物化学分野 衛生化学分野 生体防御学分野 分子細胞薬理学分野 薬物代謝動態学分野 薬物代謝動態学分野 臨床医化学分野 薬学教育学分野 学科哲学分野 文学分野 心理学・行動科学分野 法学分野 化学科 化学科 英語分野	木村 祐輔 特任教授 相澤 文恵 教授 佐藤 洋一 機構長 中野 真人 特任講師 古山 和道 教授 村木 靖 教授 近藤 ゆき子 講師 増田 友之 教授 前沢 千早 教授 佐々木 亮平 助教 高田 亮 講師 原田 英光 教授 成田 欣弥 講師 横田 聖司 助教 下山 佑 講師 石河 太知 助教 千葉 俊美 教授 岸 光男 教授 森川 和政 教授 浅野 孝 助教 米澤 正 助教 錦織 健児 助教 衣斐 美歩 助教 小澤 正吾 教授 寺島 潤 助教 高橋 巖 助教 奈良場 博昭 教授 遠藤 寿一 教授 平林 香織 教授 藤澤 美穂 助教 廣瀬 清英 講師 東尾 浩典 講師 吉田 潤 助教 柳谷 千枝子 助教	ワークショップ2（緩和医療における多職種の役割） 1.ワークショップの結果をグループごとに発表し、他グループのメンバーと討議できる。 2.チューターからのフィードバックを受け、医療における多職種の役割と多職種連携の必要性について説明できる。 （各実習室）
6/12	火	3	心理学・行動科学分野 全学教育推進機構 緩和医療学科 細胞生物学分野 分子医化学分野 感染症学・免疫学分野 情報伝達医学分野 機能病態学分野 腫瘍生物学研究部門 衛生学公衆衛生学講座 泌尿器科学講座 発生物・再生医学分野 病態生理学分野 細胞情報科学分野 分子微生物学分野 関連医学分野	相澤 文恵 教授 佐藤 洋一 機構長 木村 祐輔 特任教授 中野 真人 特任講師 古山 和道 教授 村木 靖 教授 近藤 ゆき子 講師 増田 友之 教授 前沢 千早 教授 佐々木 亮平 助教 高田 亮 講師 原田 英光 教授 成田 欣弥 講師 横田 聖司 助教 石河 太知 助教 千葉 俊美 教授	代表者発表会 1. 各会場から選出されたチームの発表を聞き、その内容について討議することができる。 2. 討議に参加することにより、医療における多職種の役割と多職種連携の必要性について説明できる。 （大堀記念講堂）

			予防歯科学分野 小児歯科学・障害者歯科学分野 天然物化学分野 衛生化学分野 生体防御学分野 分子細胞薬理学分野 薬物代謝動態学分野 薬物代謝動態学分野 臨床医化学分野 薬学教育学科 哲 学 分 野 文 学 分 野 心理学・行動科学分野 法 学 分 野 数 学 分 野 化 学 科 化 学 科 化 学 科 英 語 分 野 英 語 分 野	岸 光 男 教 授 森 川 和 政 教 授 浅 野 孝 助 教 米 澤 正 助 教 錦 織 健 児 助 教 衣 斐 美 歩 助 教 小 澤 正 吾 教 授 寺 島 潤 助 教 高 橋 巖 助 教 奈 良 場 博 昭 教 授 遠 藤 寿 一 教 授 平 林 香 織 教 授 藤 澤 美 穂 助 教 廣 瀬 清 英 講 師 江 尻 正 一 教 授 東 尾 浩 典 講 師 岩 淵 玲 子 助 教 吉 田 潤 助 教 ジェイムズ ホップス 教 授 大 沼 仁 美 助 教	
--	--	--	--	---	--

・教科書・参考書等（教：教科書 参：参考書 推：推薦図書）

	書籍名	著者名	発行所	発行年
教※	チーム医療リテラシー 2018	全学教育推進機構		2018
推	臨床緩和ケア 第3版	大学病院の緩和ケアを考える会(編)	青海社	2013

・成績評価方法

ワークショップへの参加態度（40%）、レポート等提出物（60%）はルーブリックを用いて評価する。

・特記事項・その他

本科目では、一般的な講義に加えて複数回のワークショップを実施する。グループ編成は3学部混成とする。各ワークショップにおける課題達成過程についての評価を時間内にフィードバックする。各回の振り返りシートはポートフォリオとして提出する。シラバスに記載されている次回の授業内容を確認し、科目開講時に配布された資料を用いて事前学修（予習・復習）を行うこと。各授業に対する事前学修の時間は最低30分を要する。本内容は全授業に対して該当するものとする。多職種連携に関する意識と社会的スキルの変化を評価するため、アンケート調査を科目の開始時と終了時の2回実施する。
※の教科書は講義の初日に配布します。

・授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
講義	書画カメラ・DVD プレーヤーセット（エルモ、東芝他）	1	講義資料の提示
講義	ノート型 PC（dynabook R634/K）	1	講義資料の提示
講義	デスクトップ型 PC（HP Compaq Pro 633 SFF）	1	講義資料の作成